

【高校生】 子供が迷った時に戻れるところになりましょう

高校生は、家にいるより友達とのつきあいに夢中になって、ちょっとした好奇心から生活が乱れることもある時期です。親に反抗的な態度を取ったり、友人と競い合って「自分は親に服従している子供ではない！」と強がって行動することも度々多々あるでしょう。また、その一方で、親の言うことに逆らえない子もいるでしょう。

どちらにしても、親は怒ってはいけないことはありません。

親というより、同じ人間として怒ることをお願いしたいのです。あるいは心配なら、「こういうわけで心配している」とか、「こういう事件があったから、巻き込まれるのではないかと不安なのだ」「私はそういうことは嫌いだ」と、親はこういう思いで心配なんだと説明した方がよいでしょう。子供は「うざい～～」と言ったり、嫌な感じの態度を示すと思いますが、人間としてちゃんと怒り、心配していることをちゃんと伝えておくと、その子の脳のどこかに必ず記憶として保管され、危険な場面で思い出されて、大きな危険を回避することでしょう。

大人がきちんと怒ること、叱ることはとても大事なことです。生きていく上での座標軸になります。この軸を貰えなかった子供は、迷ったときに戻る場所がなく、判断や行動が危険な一線を超えてしまうかもしれません。困った時、迷った時にいつでも戻ってこられるよう、心をつなげておきたいですね。

執筆：認定特定非営利活動法人育て上げネット 「結」相談員 森 裕子・墓田 薫

「ニート・ひきこもりの子をもつ親の会『結』」
(運営：認定特定非営利活動法人育て上げネット)

若者の「働く」と「働き続ける」を実現するために、若年無業者就労基礎訓練プログラム「ジョブトレ」など、多方面からの支援を行っている「認定特定非営利活動法人育て上げネット」の活動の一つで、親をサポートするための会。1か月ごとの定期相談やすぐ実施できる「接し方・伝え方」ワークショップ、親同士の気軽な茶話会などを提供している。

※執筆者の肩書等は、令和2年(2020年)3月現在のものです。

